







トピックス

サステナビリティ

2026年8月31日
サステナビリティサイトを更新

サステナビリティ

2025年10月31日
「サステナビリティレポート2025」を公開

サステナビリティ

2025年8月29日
サステナビリティサイトを更新





環境報告



社会性報告



ガバナンス報告



ESGデータブック



その他の開示情報

- 会社方針一覧
- 報告方針
- GRI内容索引
- 第三者検証
- 外部評価
- ESGデータブック / サステナビリティレポート / その他関連情報

SNSでシェアする

サステナビリティ

トップメッセージ



着実に計画を進め、変化にも対応する企業へ

私たちを取り巻く経営環境は、足元では中東情勢の緊迫化による原材料やエネルギーコストの上昇に加え、米国の関税政策や各国の金融政策、サイバー攻撃リスクの高まりなど一段と複雑さと不確実性を増しています。こうした変化は、企業活動にさまざまな影響を及ぼしており、企業には変化を的確に捉え、迅速かつ柔軟に対応する努力がこれまで以上に求められています。
そのような状況にあっても、当社の掲げる2030年3月期を最終とする長期ビジョン「LSV 2030」は中間点を過ぎ、重点課題の解決に向けた歩みは当初計画を上回る進捗を実現しています。これは、グループ全従業員がそれぞれの現場で課題に向き合い、改善と挑戦を積み重ねてきた成果であり、一人ひとりの行動が大きな力となっていることを示しています。

企業情報の発信と皆様の声を大切に



当社は、ESGを経営の根幹に据え、事業成長と社会的課題の解決を一体的に推進しています。また、企業価値を適切に評価していただき持続的な成長につなげるため、有価証券報告書などを通じて会社の業績や健全性を示す財務情報やESG、技術、知的資本などの非財務情報を的確に発信してまいります。変化の激しい時代だからこそ、財務情報と非財務情報の両面を判断の軸とし、持続的な成長に取り組むとともに、その成果をステークホルダーの皆様へ丁寧に発信し、皆様からの声を経営に生かしてまいります。

ESGの取り組みを通じた価値創出

環境

製品・技術・サービスを通じて環境負荷の低減に貢献することを重要なテーマとしています。環境負荷低減の一環として、CO_2排出量については2030年3月期までに2013年度比50%削減を目標としていましたが、これを前中期経営計画で達成したことから最終目標を75%に引き上げ、現在も計画を上回るスピードで削減が進んでいます。また、VOC*排出量の削減については無溶剤化の推進など製造・研究部門が一体となって取り組んでいます。
当社は、リサイクルPETやバイオマス素材などを活用した製品の開発・供給、資源循環に資する取り組み、省エネルギーに貢献する製品・技術の提供などを通じて、さまざまな場面で環境課題の解決に関わっており、生産活動においてもCO_2排出量削減につながる設備更新や太陽光発電設備の導入、継続的な省エネルギー活動の推進などを通じて、全社が一丸となって環境負荷の低減に取り組んでいます。さらに、資源循環の促進に向け、業界の関係企業と協力しながら取り組みを進めています。環境課題への対応を事業成長の機会と捉え、事業活動を通じて環境と社会への貢献をさらに深めていきます。

＊　VOC：Volatile Organic Compoundsの略称。大気中で気体状となる有機化合物の総称。

社会

サステナブルな企業であり続けるために従業員を含むすべてのステークホルダーを大切にし、良好な関係を築いていくことが不可欠です。当社では、人権方針を策定しており、人権尊重を含めた行動規範は小冊子「リンテックグループ行動規範ガイドライン」をグループ全従業員に配付することで周知徹底を図っています。
働き方改革や職場環境を従業員の声から改善に役立てるための職場環境改善小委員会、人材確保を目的としたリファラル採用制度やアルムナイ採用制度の導入、また、物価上昇など社会環境の変化も踏まえながら、従業員一人ひとりが安心して能力を発揮し成長できる環境づくりに取り組み、その一環として制度の改善や賃金水準の見直しも進めています。
こうした取り組みは、人時生産性の向上を通じて持続的な企業成長を支える重要な基盤であると認識しています。今後も、一人ひとりが「リンテックで働いてよかった」と実感し、自らの成長と働きがいを感じながら活躍できる環境づくりを進めていきます。

ガバナンス

コーポレートガバナンスの強化に向けて、「取締役会の実効性向上」「グループ全社でのリスク管理体制の整備」「事業ポートフォリオの見直し」などに取り組んでいます。こうした取り組みの一環として、サステナビリティ委員会の機能強化を進めています。同委員会では社内外の知見を取り入れながら多角的な議論を重ねる中で、重点テーマに対して社外取締役を含む経営層による建設的かつ活発な議論が行われるようになりました。
こうした議論を通じて進捗や課題を検証し、取り組みを着実に推進しています。今後も変化する社会や経営環境を的確に捉えながら、長期的な視点で持続的な企業価値の向上に取り組んでいきます。

サステナブル企業として着実に進化を続ける

長期ビジョン「LSV 2030」では「社会的課題の解決」「イノベーションによる企業体質の強靭化」「持続的成長に向けた新製品・新事業の創出」を重点テーマに掲げています。中でも「社会的課題の解決」はESGに深く関わるテーマであり、その実現に向けて、グループ全従業員が一丸となって取り組み、着実に前進しています。
これからも従業員一人ひとりの行動を原動力に、株主、お客様、お取引先、地域社会をはじめとするステークホルダーの皆様とともに、変化を成長の機会として捉えながら、持続可能な社会の実現と企業価値の向上に挑戦し続けていきます。
今後も皆様にはご意見をお寄せいただくとともに、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。



サステナビリティ推進担当役員メッセージ



リンテックのサステナビリティ

当社グループは、2030年3月期をゴールとする長期ビジョン「LSV 2030」において、「イノベーションによる企業体質の強靭化と持続的成長に向けた新製品・新事業の創出を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献する」という基本方針を掲げています。この基本方針のもと、重点テーマやマテリアリティを設定し、3年ごとに策定される中期経営計画に取り組みを落とし込み、実行してまいりました。CO_2排出量削減では当初目標を2024年3月期に前倒しで達成し、目標を引き上げるなど順調に進捗しています。さらに65歳定年制の導入や採用方法の多様化など人的資本施策の強化や非財務指標を役員報酬に連動させるなど、長期ビジョンの実現に向け、経営とサステナビリティ推進の連携を着実に進展させています。
近年、事業環境の変化に加えてステークホルダーからの要請が一層高度化しており、財務・非財務の統合的な価値創造ストーリーの発信とその実効性に対する評価もより厳しくなっています。当社グループでは、サステナビリティに関する取り組みや活動の定着に加え、より戦略的で強固な推進体制および透明性の高い情報開示を通じて、サステナビリティ経営の実効性をさらに高めていきたいと考えています。

サステナビリティ経営のさらなる実効性向上のために

実効性の向上と活動・体制の改善に向け、サステナビリティ委員会のメンバーである社外取締役へのアンケートを実施しました。項目はこれまでの活動や体制の評価、経営戦略との連携、情報開示のあり方など多岐にわたり、多面的に意見や提言を得ました。これらを踏まえ、課題ごとの優先度を明確化したうえでサステナビリティ委員会での議論と意思決定を行い、決定事項を執行側の委員会・分科会や各部署へ展開し、進捗の可視化と継続的なモニタリングを通じて成果の創出につなげてまいります。また、実効性向上のためには、経営層だけでなく従業員一人ひとりが「何のために」「いつまでに」「何を行うべきか」「どの目標に貢献するのか」を認識し、自らの業務とサステナビリティとのつながりを意識して行動することが不可欠です。社内への浸透を一層進めるため、関連情報を統合的に発信する社内ポータルサイトを2025年度に立ち上げ、従業員が自らの業務とサステナビリティの関係を理解し主体的に行動していくための基盤を整備しています。

Stage 3、さらにその先に向けて

2026年度はLSV 2030-Stage 2の目標達成を確実なものとするとともに、LSV 2030の実現に向けて重要となるStage 3の計画策定を進めます。経営環境などの変化があってもLSV 2030で設定した重点テーマは当社が引き続き重視すべきテーマです。具体的な取り組みや目標を環境変化に応じて更新し、推進してまいります。環境面では脱炭素のさらなる深化、環境配慮製品の拡充や資源循環の促進、社会面では人的資本経営の推進や事業戦略と連動した人材登用、ガバナンス面ではサステナビリティ推進体制のブラッシュアップやリスクマネジメントの高度化などを進めます。さらに、それぞれを経営戦略と有機的に結びつけることで企業価値の持続的向上を図ります。

当社グループは、社是「至誠と創造」のもと、粘着応用技術、表面改質技術、特殊紙・剥離材製造技術、システム化技術という四つの基盤技術を核とした「ものづくり」により、お客様の課題解決を通じて社会課題の解決と企業価値の向上を両立してきました。今後もこれらの強みを基盤に、技術革新と新たな発想を取り入れることで提供価値を一層高め、企業価値を向上させてまいります。あわせて、取り組みの成果を定量・定性の両面から分かりやすく開示することで、ステークホルダーの皆様との建設的な対話を通じて改善と深化につなげ、サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

ステークホルダーの皆様におかれましては、当社グループの取り組みに対して引き続きご理解とご支援を賜るとともに、忌憚のないご意見・ご助言をいただけますようお願い申し上げます。

2026年8月31日

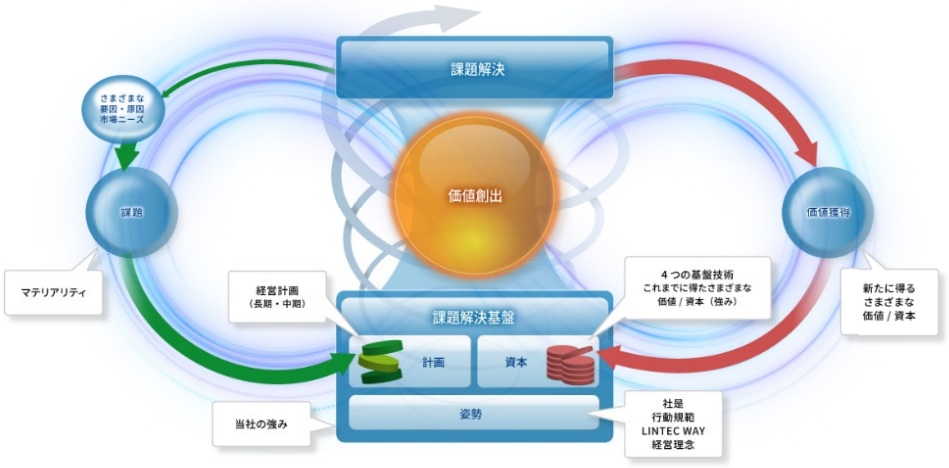
サステナビリティ

リンテックグループの考え方、体制

サステナビリティの考え方
価値創造プロセス
サステナビリティ推進体制

サステナビリティの考え方

リンテックグループは、社是「至誠と創造」を事業運営の根幹に据え、時勢に即した経営・事業計画の策定と、これまでに蓄積してきた多様な資本を基盤として新たな価値を創出し、社会課題の解決に取り組みます。
課題解決によって獲得した価値は既存の資本に加え、さらなる資本の蓄積へとつなげていきます。
また、社会課題は解決後も断続的に新たな形で発生することから、リンテックグループではその都度、適切な経営・事業計画を再構築し、蓄積した資本を活用して価値創出と課題解決を継続的に推進します。
これら一連の取り組みを通じて、サステナブルな社会および世界の実現に貢献します。



- リンテックグループ行動規範

※　会社情報ページ内に移動します。

価値創造プロセス

リンテックグループでは、価値創造プロセスを通じて持続的な成長と社会の発展を両立させ、サステナブル社会の実現を目指しています。

- 価値創造プロセス

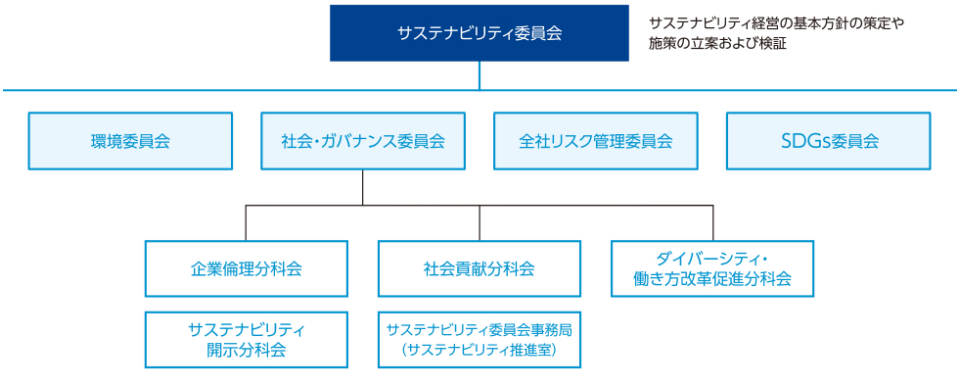
※　株主・投資家情報ページ内に移動します。

サステナビリティ推進体制

リンテックグループでは、全従業員が社是「至誠と創造」を根幹におき、サステナビリティ推進活動を行っています。

を設置し、その傘下にESGやSDGs、リスク管理などに関する各委員会・分科会を配しています。

サステナビリティ推進体制



サステナビリティ委員会

サステナビリティ経営推進のための基本方針策定や施策の立案、各委員会・分科会の施策の進捗レビュー、モニタリングおよび改善指示などを行っています。

サステナビリティ開示分科会

各種適時開示資料やPR誌、ウェブサイトなどを通じてのステークホルダーへの迅速かつ効果的な情報開示を行っています。また、サステナビリティ情報の収集や発信手法、統合報告書の誌面内容などについての検討と外部調査機関の調査への回答および経営層への評価結果のフィードバックなどにも取り組んでいます。

環境委員会

持続可能な社会を目指し“気候変動・循環経済・自然共生”の環境課題について策定した「リンテックグリーンプラン」に基づいてLSV 2030の実現に向けて活動を行っています。

社会・ガバナンス委員会

社会・ガバナンスに関する方針の策定や施策の立案および遂行を目的としており、ESGの社会（S）とガバナンス（G）に関する会社の取り組みの進捗をチェックしています。

企業倫理分科会

企業倫理の醸成と従業員一人ひとりへの浸透・定着を目的に活動しています。

社会貢献分科会

地域社会および国際社会における良き企業市民として、社会の持続的発展に寄与する身の丈にあった社会貢献活動を推進することを目的としています。

ダイバーシティ・働き方改革促進分科会

ダイバーシティ・働き方に関するニーズの吸い上げ、施策や制度の浸透と啓蒙活動を行っています。

全社リスク管理委員会

全社的な事業におけるリスクと機会の把握、対応方針策定、職制への落とし込みおよび検証を行っています。

SDGs委員会

本業を通じてさまざまな社会課題の解決に貢献していくことを目的に、全社横断的にメンバーを募り、SDGsの理解を深めるとともにビジネスアイデアを創出する活動を行っています。

サステナビリティ

マテリアリティ（重要課題）とKPI

リンテックグループがサステナブルな社会の実現に貢献するために優先的に取り組む課題を「マテリアリティ」として特定し、その評価指標（KPI）*も定めて進捗を確認しています。

＊　評価指標（KPI）：Key Performance Indicator。目的に対する達成具合を定量的に測るために設定された組織の戦略に関わる重要な指標。

> 長期ビジョン「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030」（略称：LSV 2030）

※　株主・投資家情報ページ内に移動します。

「LSV 2030-Stage 2」マテリアリティ・KPI詳細［PDF：224KB］

「LSV 2030-Stage 2」

新中期経営計画経営「LSV 2030-Stage 2」策定に合わせ、マテリアリティ・KPIの見直しを行いました。今回のマテリアリティ見直しに当たっては、ダブルマテリアリティ*の考え方を用いて最終化を行っています。
また、脱炭素社会の実現に向けたCO_2排出量削減においては、その取り組みを精力的に加速させたことで、2030年までに2013年度比で50%以上削減する目標を前倒しで達成することができました。このことから「Stage 2」では67%以上、「Stage 3」では75%以上へと目標を変更しました。

＊　ダブルマテリアリティ：自社が社会・環境に与える影響およびサステナビリティ課題が財務に与える影響の二つの観点から評価したサステナビリティに関する重要課題。

リンテックのマテリアリティ

最終化されたマテリアリティは以下の通りです。

事業活動を通じて社会的課題の解決を図る

イノベーションによる企業体質の強靭化と持続的成長の推進

環境・社会・お客様への責任を果たす

未来のための人材を守り、育てる

信頼されるリンテックであり続ける

マテリアリティの特定プロセス

マテリアリティの特定作業は、①サステナビリティ課題の抽出、インパクト調査 ②課題の整理、集約 ③重要度評価（自社が社会・環境に与える影響／サステナビリティ課題が財務に与える影響を評価） ④マテリアリティ特定・最終化のプロセスで行いました。

① サステナビリティ課題の抽出、インパクト調査

この作業では、異なる四つの分析（バリューチェーン分析・ステークホルダー分析・メガトレンド分析・経営／事業分析）、インパクトの調査を行うことで、多様な視点からなる209項目のサステナビリティ課題を抽出しました。

② 課題の整理、集約

独立した四つの視点から行った分析で抽出された課題には、重複するものや意味合いが近しいものも含まれました。そこで洗い出された209項目の課題を35項目に整理、集約しました。

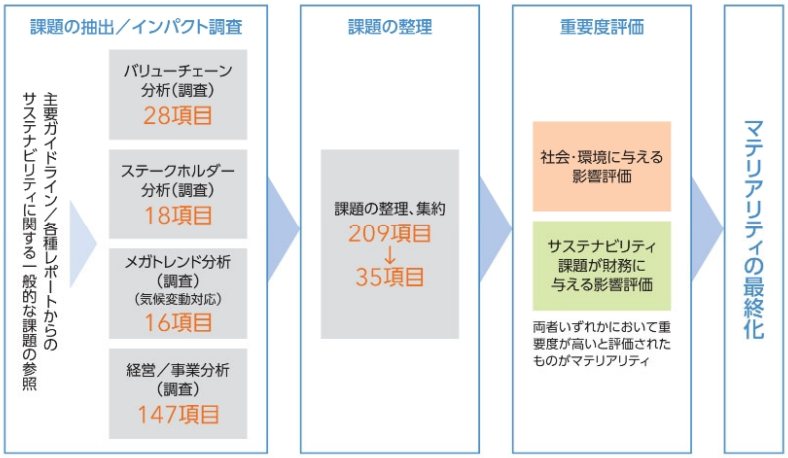
バリューチェーン分析	セグメント別の原材料調達から、販売・使用、廃棄・リサイクルを含めたバリューチェーンごとの影響分析を実施することで、重要な課題を抽出
ステークホルダー分析	「従業員」「お客様」「お取引先」「株主・投資家」「社会・経済」を対象とし、ステークホルダーの関心、課題、期待を考察することで、重要と考えられる課題を抽出
メガトレンド分析	「気候変動」「自然生態系の損失」「人口／年齢層構成」「資源・エネルギー」「テクノロジー」などを対象とし、そのトレンドの変化、事業への影響を考察し、当社グループの社会的役割から課題を抽出
経営／事業分析	「社是・経営理念」「トップメッセージ」「行動規範」「各種方針」「LSV 2030」「決算説明会資料」などを対象とし、現在および将来に生じる課題を抽出

③重要度評価（自社が社会・環境に与える影響／サステナビリティ課題が財務に与える影響を評価）

最終的なマテリアリティの設定をするにあたり、集約された35項目のサステナビリティ課題に対して、自社が社会・環境に与える影響およびサスティナビリティ課題が財務に与える影響の二つの観点から重要度の評価を行いました。
まず、自社が社会・環境に与える影響評価にあたっては、影響の規模、発生の可能性について検討を行うことでその影響度を測りました。さらに、サステナビリティ課題が財務に与える影響では、リスク（課題に対する対応を行わなかった場合の財務への影響）とビジネスチャンス（取り組んだ場合の収益への貢献）の二つの観点から評価を行うことでその影響の大きさを評価しました。

④マテリアリティ特定・最終化

自社が社会・環境に与える影響およびサステナビリティ課題が財務に与える影響評価のいずれかにおいて重要度が高いと評価されたサステナビリティ課題について、関連性の高いものを整理し、五つのマテリアリティとしてまとめることで、最終化を行いました。



KPI （評価指標）の設定

最終化されたマテリアリティに対し、設定した施策の進捗状況を測るための指標としてKPIの設定を行いました。KPIの設定においては、各部署での取り組みとの整合を図りながらマテリアリティに対する効果的な施策を検討の上、設定しています。

サステナビリティ

環境報告



リンテックグループでは、企業活動と地球環境の調和を目指し「地球は一つ、大きな視野で快適環境に尽力しよう」をスローガンに、さまざまな取り組みを推進しています。

環境マネジメント

- 環境マネジメントシステム
- 内部監査
- 環境教育
- 環境コンプライアンス
- マテリアルフロー

環境配慮製品の開発

- 環境配慮製品のガイドライン策定と運用

気候変動の緩和と適応

- CO_2排出量削減に向けた取り組み（スコープ1、2、3含む）
- TCFD提言への対応

循環型社会の実現

- 廃棄物の削減
- サーキュラーエコノミー
- 持続可能な原材料調達

目然共生

- 用水の使用と排水
- 生物多様性保全のための取り組み

環境負荷化学物質の管理

- PRTR法への対応
- VOC排出量の削減
- 化学物質管理、EUにおける各種規制への対応
- PCB廃棄物および使用製品の処理完了

環境保全コスト

環境マネジメント

リンテックグループでは、環境マネジメントシステムを構築・運用し、リスクと機会を踏まえて継続的改善を図り、多角的な取り組みを推進しています。

環境マネジメントシステム

リンテックグループは「品質・環境・事業継続方針」に基づき、地球環境保全に積極的に取り組んでおり、ISO14001認証取得や第三者検証を受けています。

環境マネジメントシステム関連データ［PDF：2,194KB］

内部監査

リンテックグループでは、環境マネジメントシステムを事業活動へ浸透させるため、内部監査や相互監査を実施し、法令遵守やシステム運用に関してPDCAのスパイラルアップを促進しています。外部・内部審査の指摘事項は、内容の詳細（発生状況・背景・指摘事項の本質）を確認し、水平展開することで、活動のレベルアップを進めています。

内部監査関連データ［PDF：2,194KB］

環境教育

環境マネジメントシステムの認識教育をはじめ、各種教育を実施しています。生物多様性の保全活動に関しては、専門コンサルタントによる講演を実施し、従業員の理解向上と取り組みの強化を図っています。

環境教育関連データ［PDF：2,194KB］

環境コンプライアンス

各拠点では、環境関連法規制等順守評価を半期ごと（2回／年）に実施し、その結果を全社EMS事務局で精査しています。順守評価、内部監査、相互監査、外部（継続・維持）審査およびマネジメントレビューの結果をもとに、改善の機会や是正処置への対応を行い、環境パフォーマンスの向上に努めています。

環境コンプライアンス関連データ［PDF：2,194KB］

マテリアルフロー

リンテックと国内グループ会社を対象にエネルギー、資源投入量、製品生産量、さらには大気・水域などへの環境負荷などのデータを集計し、活動量の把握に努めています。

マテリアルフロー関連データ［PDF：2,194KB］

環境配慮製品の開発

リンテックグループは、ものづくりを担う企業の責任として、環境負荷低減を指向した製品の開発に力を注いでいます。また、設計段階からLCA*を参考に資源採取・原材料調達から製造過程、廃棄までを含めた環境負荷低減に努めています。

＊　LCA：Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて投入されるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO_2、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。

> 環境配慮製品

※　製品情報ページ内へ移動します。

環境配慮製品のガイドライン策定と運用

リンテックでは、ISO14021*に準拠した「自己宣言型環境配慮製品」のガイドラインを作成し、運用しています。今後も環境配慮製品の開発に努めていきます。

＊　ISO14021：「環境ラベルおよび宣言－自己宣言による環境主張（タイプⅡ環境ラベリング）」のための国際規格。企業自らが基準を設け、これを満たすことでラベルを付与することができる。

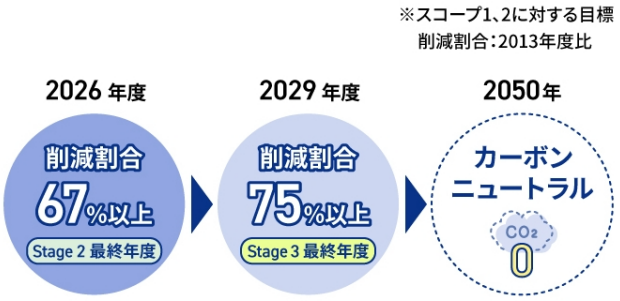
環境配慮製品のガイドライン策定と運用関連データ［PDF：2,194KB］

気候変動の緩和と適応

リンテックグループでは、事業活動を継続するうえで大きなリスクとなる気候変動などに適応するとともに、機会の獲得のため、さまざまな環境活動に力を注いでいます。

CO_2排出量削減に向けた取り組み

リンテックグループでは、2050年カーボンニュートラルを目指し、設備改善や自家消費用太陽光発電システムの導入など、CO_2排出量の削減に取り組んでいます。



スコープ1、2、3データ［PDF：2,194KB］

エネルギー総使用量とCO_2排出量

排熱の有効利用、高効率機器の導入、太陽光発電設備の設置、低炭素排出係数電気の契約などに取り組み、CO_2排出量削減に貢献します。

各種取り組み

CO_2排出量削減に向けたロードマップを作成し、計画的に取り組んでいます。

SBT認定の取得

リンテックは、科学的根拠に基づいた温室効果ガス排出削減目標「SBT*1」の認定機関である「SBTイニシアチブ*2」より認定を取得しました。

＊1 SBT（Science Based Targets）：パリ協定が求める水準と整合した、企業が設定するGHG削減目標のこと

＊2 SBTイニシアチブ：世界自然保護基金（WWF）、CDP（旧名称：カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）、世界資源研究所（WRI）、国連グローバル・コンパクト（UNGC）により設立された企業のGHG削減の評価を行うイニシアチブ

CO_2排出量削減に向けた取り組み関連データ［PDF：2,194KB］

TCFD提言への対応

リンテックグループでは、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言に沿って積極的に情報開示を行い、ステークホルダーの皆様とのエンゲージメントを通じて、さらなる企業価値向上に努めていきます。

【ガバナンス】
気候変動関連課題への取り組み施策については、「サステナビリティ委員会」（原則年４回開催）において議論と進捗状況の監督を行っており、討議結果は取締役会において報告される体制としています。
【戦略】
リンテックグループでは、気候変動に伴うさまざまなリスク・機会を事業戦略上の重要事項の一つとして捉えており、2030年（中期）および2050年（長期）を見据え、複数の気候変動シナリオを用いた分析を実施し、移行リスクおよび物理リスクと、それに伴う機会を特定しています。
【リスク管理】
気候関連リスクに関わる情報は「環境委員会」が収集して識別・評価を行い、その結果を「サステナビリティ委員会」に報告しています。同委員会では対応の必要性を検討後、所管部署にて対応策を実行します。「環境委員会」では、当初掲げた指標・目標が達成できているかどうか定期的に把握しています。
【指標と目標】
気候変動への対応として温室効果ガス（GHG）排出量の削減が重要であると認識し、数値目標を設定し、さまざまな施策を推進しています。

※　詳細な分析内容や数値については、以下TCFDに基づく情報開示資料をご参照ください。

TCFDに基づく情報開示［PDF：353KB］

循環型社会の実現

リンテックグループでは、パルプ・粘着剤・プラスチックなど多くの原材料を使用しており、紙くず・廃プラスチック・製紙由来の汚泥などの廃棄物を排出しています。限りある資源を有効利用するため、設計段階では原材料の少量化や、バイオマス材・リサイクル材の積極使用などを進めています。製造段階においては、有機溶剤の使用量の削減や製造工程の簡略化などに取り組んでいます。また、製品の薄型化や小型化よる使用後の廃棄物削減に加え、リサイクルを容易にする製品設計も進めることで、循環型社会の実現を目指しています。

廃棄物の削減

従来の3R（リデュース（ごみの減量）・リユース（再利用）・リサイクル（再資源化））の活動の継続による廃棄物発生量の削減に加え、国内ではゼロエミッション*を目指して、処理方法（マテリアルリサイクル・サーマルリサイクル・埋立）に応じた適切な処理業者の選定、再資源化できる原材料への転換、分別の細分類化などを行い、埋立処分ゼロを目指して取り組んでいます。
また、プラスチック資源循環促進法に則り、教育訓練および管理体制の整備を行い「排出抑制及び再資源化等の目標」を設定し、プラスチックの資源循環に取り組んでいます。

＊　ゼロエミッション：リンテックでは、最終埋立比率（最終埋立量／廃棄物発生量×100で求められる数値）が1%以下であることが基準。

廃棄物の削減関連データ［PDF：2,194KB］

サーキュラーエコノミー

製品や生産から廃棄物や汚染を出さない製品設計を行い、リサイクル資源を有効活用して新たな資源利用を抑え、製品の生産から利用、リサイクルに至るまで資源が循環するサーキュラーエコノミーへの移行を推進します。
海洋プラスチックごみの削減に向けてはCLOMA*にも加盟し、一企業市民として環境配慮製品の提案と啓発にも取り組んでいます。また、プラスチック資源循環促進法に則り、プラスチックの「設計・製造」段階での使用量削減、排出量削減、再資源化への取り組みを進めています。

＊　CLOMA：Clean Ocean Material Allianceの略称。海洋プラスチックごみの削減に向けてプラスチック製品の持続可能な使用や代替素材の開発・導入を推進し、官民連携でイノベーションを加速化するためのプラットフォーム。経済産業省が主導。

> 剥離紙の有効活用・リサイクル促進に向けラベル循環協会に参画

※　トピックスページ内に移動します。

持続可能な原材料調達

リンテックでは、原材料調達基本方針に基づいて持続可能な原材料調達を進めています。お取引先にはアンケートを通して安定供給の確認を行っています。また、原材料について生産に関する情報を調査し、整理しています。インシデント発生時には、調査結果を使用して影響が懸念される原材料を速やかに特定し、原材料の調達が途切れないように努めています。

> 原材料調達基本方針

※　会社情報ページ内に移動します。

> CSR調達（社会性報告）

自然共生

リンテックグループでは、水保全や生物多様性保全など自然共生（自然への環境負荷低減）の活動を行っています。

用水の使用と排水

リンテックでの用水使用量は製紙部門がある熊谷工場と三島工場が8割以上を占めています。設定された目標達成に向け、各工程における用水使用量と排水量の削減に継続して取り組んでいます。
抄紙機を有する工場では水質汚濁防止法に加え、愛媛県赤之井川流域の三島工場は瀬戸内海環境保全特別措置法（瀬戸内法）に対応し、また埼玉県荒川流域の熊谷工場は埼玉県生活環境保全条例などに対応し、それぞれの地域の排水基準を満たしています。

用水の使用と排水関連データ［PDF：2,194KB］

生物多様性保全のための取り組み

リンテックグループでは、リンテックグループ品質・環境・事業継続方針に「生物多様性の保全」を掲げ、国内外において生物多様性の保全活動に取り組んでいます。
国内生産工場においては、LEAPアプローチ（Locate / Evaluate / Assess / Prepare）を実施しています。影響と依存度を評価し、①生物多様性へのネガティブインパクトを減らす取り組み、②自然の再生・復元を通した生物多様性へのポジティブインパクトを増やす取り組み、③活動推進のための地域連携、以上3つの視点を組み合わせてネイチャーポジティブな工場を目指す取り組みを実施しています。

生物多様性保全のための取り組み事例［PDF：2,194KB］

環境負荷化学物質の管理

リンテックグループでは、国内外における環境法令や各種規制などを遵守し、環境負荷化学物質の管理に努めています。

PRTR法への対応

リンテックでは、PRTR法*対象物質の排出量のモニタリングを実施、特に取扱量の多いトルエンについて削減に努めています。
有機溶剤の大気排出を減らすための処理機を設置しており、定期的に点検・掃除および排出濃度測定を実施し、性能維持に努めています。新たな処理設備設置に当たっては、従来処理できていなかった低濃度溶剤ガスの濃縮装置を取り入れ、処理効率の高い設備を導入していきます。

＊　PRTR法：Pollutant Release and Transfer Register （化学物質の排出・移動量）の届出制度を法制化したもの（特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律）の略称。化学物質の排出量・移動量に関するデータを把握・集計し、国に報告して公表される仕組み。

PRTR法への対応関連データ［PDF：2,194KB］

VOC排出量の削減

リンテックグループでは、企業による大気汚染防止の観点からVOC*排出量削減の重要性を認識し、対策の立案と実行を推進しています。
剥離紙に用いる剥離剤とシール・ラベル用粘着製品に用いる粘着剤の無溶剤化を進めており、無溶剤剥離紙用加工設備の導入を図り、溶剤を使用しない製品の生産拡大に努めます。また、粘着加工においても水系粘着剤やホットメルト粘着剤の採用を進めています。
引き続き、確実な処理設備管理、無溶剤化率の数値管理、無溶剤化製品の開発・拡販などを実施し、さらなる環境負荷低減に努めていきます。

＊　VOC：Volatile Organic Compoundsの略称。大気中で気体状となる有機化合物の総称。

VOC排出量の削減関連データ［PDF：2,194KB］

化学物質管理、EUにおける各種環境規則への対応

リンテックでは、環境負荷物質調査対象物質を定め、購入原材料について調査を実施、化学物質の適切な管理・把握により、関連法規の遵守およびお客様への情報伝達に努めています。
また、REACH規則*において、情報伝達義務のあるSVHC（高懸念物質）認可対象候補物質は今後さらに追加される可能性があるため、迅速に規制物質情報を得て環境負荷物質への対応を行っています。紛争鉱物やフッ素化合物(PFASなど)に関しても、同様の対応しています。また、環境に配慮した製品対応に努めながら、製品含有化学物質の管理を強化していきます。

＊　REACH規則：EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

化学物質管理、EUにおける各種環境規則への対応関連データ［PDF：2,194KB］

化学物質漏えい事故などを想定した訓練

リンテックグループの化学物質を取り扱う工場、研究所では、化学物質の漏えい事故が発生したときに敷地外に流出する

PCB廃棄物および使用製品の処理完了

リンテックにおけるPCB*廃棄物および使用製品の処理は完了しています。

＊　PCB：ポリ塩化ビフェニルの略称。PCBを含む廃棄物および使用製品については、PCB特別措置法（ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法）により、期限内（低濃度PCB廃棄物処理期限：2027年3月31日）の処理が義務づけられている。

環境保全コスト

リンテックでは、環境保全コストおよび効果の把握に努め、環境保全活動を効果的に推進しています。

環境保全コスト関連データ［PDF：2,194KB］

サステナビリティ

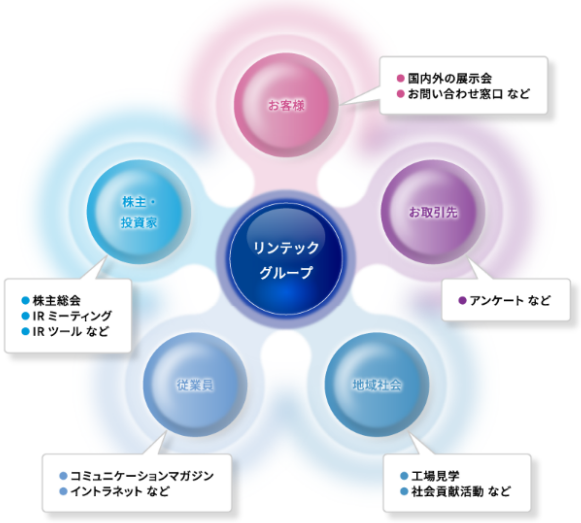
社会性報告



リンテックグループは、お客様やお取引先、従業員、株主・投資家、地域社会など、多くのステークホルダーの皆様に支えられています。ここでは、社会と企業の持続的発展を目指した活動を報告します。

リンテックグループのステークホルダー

リンテックグループのステークホルダーとさまざまな対話の場を設け、業務に反映しています。



ステークホルダーコミュニケーション［PDF：251KB］

お客様のために

- CS（お客様満足）向上のために
- 品質保証

お取引先との協働

- CSR調達
- BCPにおけるお取引先との協働

従業員とともに（人権・雇用）

- 人権と多様性（ダイバーシティ）の尊重
- ワークライフバランス

従業員とともに（人材育成）

- 人材育成

従業員とともに（安全衛生）

- 安全衛生

地域社会とともに

- 地域社会との共生

株主・投資家とともに

社会性報告

お客様のために

リンテックグループは、品質方針のもと、お客様の期待に応えるため「ものづくり」の原点に立ち「お客様の満足度向上」「品質重視」を基本とした製品開発・製造・販売に努めています。
製品やサービスへの付加価値向上をはじめとした、あらゆるステークホルダーから信頼される事業活動により、社会に貢献します。

CS（お客様満足）向上のために

CS（お客様満足）向上のために関連データ［PDF：3,646KB］

ワンストップ開発の推進

リンテックの研究開発本部では「ワンストップ開発」を推進しています。ワンストップ開発とは研究開発の初期段階から、量産プロセスの確立を視野に入れて製品設計を進めていく業務進行の考え方です。研究所の先端技術棟には工場の量産設備に近い、大型のテスト用粘着塗工設備やシリコーン塗工設備を導入しています。これらを活用した試作を実施することで、処方設計とプロセス設計を同時に進めることが可能となり、新製品開発・市場投入のスピードアップにつながります。

製品の情報開示

リンテックグループでは、製品を安全に・安心してご使用いただくため製品情報をお客様へお知らせしています。リンテックのホームページなどで製品の特徴、注目製品、ラインアップなどを紹介しています。

› 製品情報

※　製品情報ページ内に移動します

品質保証

リンテックグループは、社是「至誠と創造」の精神を根幹におき、従業員一人ひとりが「お客様の満足度向上」「品質重視」 を考え、「ものづくり」に取り組んでいます。また、現状に満足することなくチャレンジ精神を持って、さらなる「安心」と「信頼」を届けるよう努めています。

品質保証関連データ［PDF：3,646KB］

品質保証体制

リンテックグループでは、ISO9001*に基づく品質保証体制を構築しており、また国内グループは6事業部門を品質マネジメントシステム（QMS）で統合しています。
リンテックでは、2022年度から品質保証本部体制となり、品質保証と品質管理の強化、QMSの有効的な運用を図り、さらなる品質向上に継続して取り組んでいます。
品質重視の事業活動と品質保証活動の実践を通して、「ものづくり」の原点に立った、顧客視点の品質保証体制構築を目指します。

＊　ISO9001：品質マネジメントシステム（QMS）の国際規格。

品質事故の予防と教育

リンテックグループでは、製品やサービスの品質を維持・向上させ品質事故を未然に防ぐために、品質マネジメントシステム（QMS）を事業プロセスと融合させ、効果的に運用することが重要と考えています。
そのために、QMS要求事項の理解を目的とした体系的な教育を継続して実施しています。
さらに、品質トラブルの未然防止と「お客様第一」の実践強化に向け、変更管理の重要性を組織全体で共有する「変更管理動画教育」や統計的問題解決手法をツールとした「品質管理教育」などを実施しています。
今後は、製品・サービスの向上を目的とした「顧客満足度調査のポイント」教育や、QC的考え方の現場への浸透を進める「拠点推進者教育」などの取り組みを通じて、グループ全体の品質向上をさらに推進していきます。

安全衛生インパクトの評価

リンテックグループの使用する素材の中には有害な化学物質が含まれるものもありますが、製品を使用するお客様に影響することがないように、RoHS指令*および労働安全衛生法等の基準にしたがって原材料を選択し、製品の製造工程で混入がないように注意を払っています。
なお、製造管理はISO9001に基づいて行っています。

＊　RoHS指令：EUでの電子・電気機器における特定有害物質の使用制限に関する指令。

社会性報告

お取引先との協働

リンテックグループでは、全てのお取引先を「相互発展を目指すパートナー」と考えて、信頼関係の構築に努めています。お取引先の選定に当たっては、自由な競争原理に基づき適正に評価し、公正・透明な取引を行い関連法規・社会規範を厳守した調達活動を行っています。

CSR調達

リンテックでは、CSRの精神に基づいて「リンテック原材料調達基本方針」「リンテックグリーン調達方針」「リンテック木材パルプ調達方針」を定め、これらの方針に沿った調達活動を実施しています。
お取引先には、さまざまな機会を通じて、人権尊重、労働・安全衛生、情報セキュリティー、企業倫理など、多面的な観点からCSRの徹底をお願いしています。
また、お取引先のCSRの取り組み状況（法令遵守、児童労働の禁止、安全・健康など）をお取引先アンケートの中で確認し、必要な場合には改善を求めています。

CSR調達関連データ［PDF：3,646KB］

サプライヤーの評価と改善

リンテックでは、サプライヤーとの信頼関係がより確かなものになるよう、お取引先アンケートの記入をお願いしています。

グリーン調達

リンテックグループでは、環境負荷低減を目指して、原材料、部品、副資材の化学物質管理を徹底しています。新たな材料を調達する際はもちろん、継続的に調達している材料についても新たな規制への対応として製品含有化学物質を調査しています。

責任ある鉱物調達

リンテックでは、武装勢力の資金源や人権侵害・労働問題などにつながる、紛争地域や高リスク地域（CAHRAs*1）で採掘される鉱物*2について、重大な社会問題であると認識し、使用する原材料については、経済協力開発機構（OECD）の「紛争地域および高リスク地域からの鉱物の責任あるサプライチェーンのためのデュー・ディリジェンス・ガイダンス」（OECDガイダンス）を参考にこれらに関与する鉱山から採掘された鉱物が含まれていないか、CMRT（Conflict Minerals Reporting Template）やEMRT（Extended Minerals Reporting Template）などを利用して厳格な調査を実施し、責任ある鉱物保証プロセス（RMAP*3）適合精錬所からの鉱物調達に取り組みます。

＊1 CAHRAs：Conflict-Affected and High-Risk Areas

＊2 鉱物：米国金融規制改革法において規定された紛争鉱物に由来する金属は、3TG（タンタル、錫、タングステン、金）。当社ではそれらに加え、コバルト・マイカも対象としています。

＊3 RMAP：Responsible Minerals Assurance Process

児童労働・強制労働

リンテックグループでは、児童労働および強制労働を重要な課題と捉えています。リンテックでは、定期的にお取引先アンケートの形式で状況把握をしています。

BCPにおけるお取引先との協働

リンテックでは、製品の安定供給に必要な原材料の供給元であるお取引先に対して、その事業継続能力の評価を進めています。主要なお取引先を対象に①当社向けの在庫保有量、②お取引先における原材料購入ルート、③生産拠点および設備の防災対応、④代替生産拠点の調査を実施しています。
また、BCPを導入し組織的に運用する体制の整備や、インシデント*発生時に対応する組織や手順の整備についても、対応の協力要請を行っています。

＊　インシデント：中断や阻害、損失、緊急事態・危機になり得る、またはそれらを引き起こし得る状況。

社会性報告

従業員とともに（人権・雇用）

リンテックグループでは、全ての従業員が社是「至誠と創造」の下、共に働いています。全従業員が平等に働きがいを持てるよう、人種、信条、性別、国籍、宗教、年齢、出身、身体的障がい、先住民、移民、性的指向、性自認などによるあらゆる差別的取り扱いをせず、従業員やステークホルダーの多様性（ダイバーシティ＊）を尊重しています。今後も、ダイバーシティを促進し、互いを認め合いながら成長し続けることを目指していきます。

＊　ダイバーシティ：立場や価値観などの異なる人同士が集団の中に存在すること。人や集団間に存在する多様な個性を尊重することで、適材適所での各能力の発揮や多様な視点での問題解決、独創的なアイデアの創出などを促進する。

人権と多様性（ダイバーシティ）の尊重

人権と多様性（ダイバーシティ）の尊重関連データ［PDF：3,646KB］

「女性活躍推進法」および「次世代育成支援対策推進法」への対応

リンテックは、さまざまな立場の方の採用・登用を積極的に進め、多様性の確保・拡大に取り組んでいます。また、出産・育児・介護などのライフイベントがあっても働き続けられる制度と職場風土づくりを継続するとともに、従業員一人ひとりが働きがいを持ち、活躍できる組織を目指します。
女性活躍推進法 および 次世代育成支援対策推進法の行動計画を策定し、あるべき姿に向けて着実な歩みを進めていきます。

人権尊重の労務管理と教育

リンテックグループでは、企業活動の根幹に「コンプライアンス」があると考えており、国内外の企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」の遵守を徹底しています。これは従業員の採用や就労に関しても同様であり、不当な差別行為、児童労働、ハラスメントの禁止など、労働関連法規を遵守した労務管理を行っています。
また、リンテックでは、階層別研修プログラムに人権教育を取り入れています。新入社員に対して「国連グローバル・コンパクト」と「サステナビリティ」に関する研修や、新任監督職・新任管理職研修・全社研修においても外部講師を招いてハラスメント研修を実施しています。

障がい者雇用

リンテックでは、本社に人事部業務支援室を設置し障がい者の安定的な雇用に努めています。また、研究所にも業務支援室分室を横展開し、多目的トイレを設置するなどバリアフリー対応の施設で働きやすい環境づくりを進めています。

ジョブリターン制度、アルムナイ・キャリアリターン制度

リンテックで導入している「ジョブリターン制度」は、出産や家族の介護、配偶者の転勤など、さまざまな家庭の事情により自己都合で退職した従業員を即戦力として再雇用する制度です。また、多様な働き方の新たな取り組みとして、転職・留学などのキャリア形成を理由に自己都合で退職した元従業員を即戦力として再雇用する「アルムナイ・キャリアリターン制度」を2025年4月に導入しました。

高年齢者雇用

「高年齢者雇用安定法」が改正されたことに伴い、65歳から70歳までの再雇用を可能にするよう定年再雇用規程を改定しました。加えて、2023年度に65歳定年制を導入しました。2024年度には、グループ会社でも65歳定年制を導入し、シニア従業員が長年培ってきた知識や技術を次世代につなげながら、さまざまな場で活躍しています。

社会貢献休業制度

2022年度に社会貢献（ボランティア）休業制度を導入しました。会社が認めた期間（最長1年間）にわたる災害復旧・海外支援への協力など、社会貢献を目的とする活動に参加するための休業制度です。

労使関係

リンテックでは、ユニオンショップ制（管理職以外の労働者が労働組合に全員加入する制度）の労働組合として「リンテックフォーレスト」が組織されています。会社とリンテックフォーレストが互いの立場を尊重しつつ新しい制度やさまざまな問題に対して協議し、協定を締結しています。また、安全にも労使一体で取り組んでおり、労災ゼロを目指して活発な活動を行っています。

人権と多様性（ダイバーシティ）の尊重関連データ［PDF：3,646KB］

ワークライフバランス

安心して仕事に取り組み、その能力を充分に発揮するには「ワークライフバランス」の実現が不可欠です。リンテックでは、多様な人材が生き生きと働ける職場環境づくりやキャリア形成に向けて、就業規則の改定や職場環境の改善など多面的な取り組みを検討・実施しています。

ワークライフバランス関連データ［PDF：3,646KB］

リタイアメントプランニング研修・キャリアアップ研修

リンテックでは、「リタイアメントプランニング研修」や「女性のためのキャリアアップ研修」を定期的に実施しています。これらの研修を通し、社会情勢の変化や個人の価値観が多様化する中において、ライフプランやキャリアアップの重要性を周知するよう、今後も情報提供に努めていきます。

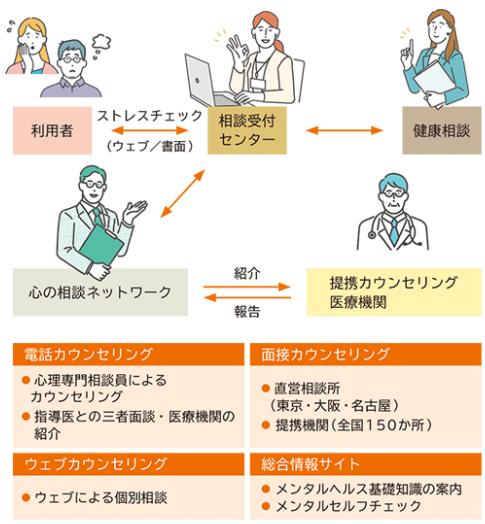
長時間労働対策

リンテックでは従業員の体や心に過度の負担をかける深夜残業・長時間労働を防ぐため、人員の適正配置や業務量の平準化、上司による残業時間管理を行っています。そのための仕組みとして職場ごとのノー残業デー、フレックス勤務制度、裁量労働制に加え2019年度より勤務間インターバル制度、テレワーク制度を導入しました。労働時間の把握については管理職、裁量労働者なども含んだ全従業員を対象としています。細かな労務管理ができるように勤怠管理システムを導入し、日々の時間外勤務の申請をフォローしています。また「心の健康診断」を年1回受診することで、各自がストレスの状況を把握しメンタルヘルスの自己管理に役立てています。

メンタルヘルス対策

リンテックグループでは、予防型EAP*システムを導入しています。年1回の「心の健康診断」により、各自がストレスの状況を把握し自己管理に役立てるとともに、組織ごとの分析結果は経営層に報告され改善を図ります。また、リンテックグループの従業員とその家族のために、健康、メンタルヘルス、育児、介護、法律、家計などの悩みを専門家に相談できる、サポートホットラインを設置しています。さらに、外部委託している当社グループの専用ライン「職場環境改善のためのハラスメント相談窓口」を設け、ハラスメントなどについて臨床心理士に電話相談できる体制を整えています。

予防型EAPシステムの概要



＊　予防型EAP：Employee Assistance Program（従業員支援プログラム）の略称。既に不調を訴えている従業員への「対処」に加え、健康な従業員に対する「予防」にも重点を置き、従業員が働きやすい職場をつくることで生産性を上げようとする従業員プログラム。

集団予防接種

リンテックでは、自社の自発的な健康プログラムとして、インフルエンザの予防接種を推奨しています。産業医と連携して会社で就業時間中に接種できる機会を提供するなど、従業員が安心して働けるよう会社を挙げて予防接種を受けやすい環境を整備しています。
また、2021年から健康保険組合による従業員および被扶養者のインフルエンザ予防接種費用の補助を行っています。

乳がん検診対象者の拡大

リンテックでは、従業員および家族が、より健康で充実した生活を過ごすためのサポートの一環として、健康保険組合による各種健康診断を実施しています。35歳以上*の女性従業員および被扶養者は、希望により乳がん検診を受診することが可能です。

＊　厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針（令和3年10月1日一部改正）」では、40歳以上の女性が対象。

健康促進

リンテックでは、従業員および家族の健康促進や仕事の効率アップを図ることを目的に、健康増進法の趣旨に基づき「健康促進手当」を導入しています。支給対象となる従業員の条件は「全く喫煙をしない」または「禁煙を始めて60日以上経過」とし、手当を支給しています。

ワークライフバランス関連データ［PDF：3,646KB］

社会性報告

従業員とともに（人材育成）

リンテックグループでは、従業員の業務や能力に合わせた教育プログラムを用意し、人材の育成に努めています。
またリンテックでは、幅広い知識・センスに加えて、専門性を持った人材育成のためのプログラムを導入しています。スキルアップはもとより、各人の意欲を最大限に引き出し、自発的なキャリアデザイン*を支援するもので、従業員の声を基に“自立開発型”研修体系として進化を続けています。最新の研修は、階層別とテーマ別の2つに分けて実施しています。

＊　キャリアデザイン：自分の経験やスキル、ありたい将来像について考慮しながら、自らの持つ能力を生かすために計画すること。

人材育成

人材育成関連データ［PDF：3,646KB］

全社階層別研修とキャリアデザイン

リンテックでは“会社と社会の発展に貢献できる人づくり”を目指しています。入社時に実施する新入社員研修に始まり、従業員のキャリアアップの過程に合わせて、多様な価値観を持つ従業員一人ひとりが成長を実感できる人材教育プログラムとして、全社階層別研修を導入しています（３年目フォロー研修、５年目フォロー研修、新任監督職研修、新任管理職研修など）。この研修プログラムを通じて、従業員の能力向上はもとより、各人のキャリアデザインを支援しています。
従業員の育成については、年2回、業務実績または取り組みに対するフィードバック面談を上司が実施し、モチベーションの維持・向上につなげています。
また、入社4年目・7年目・監督職の従業員を対象とした人事部によるキャリア面談を実施し、キャリア形成の課題を会社と一緒に考える機会を設けています。

サステナビリティ意識の浸透

リンテックグループでは「多様かつ多面的な社会課題に対して、従業員一人ひとりが”自分にできること”に気づき、行動し、同じ目的や目標を持つ仲間と協力しながら価値を生み出していくことが、持続可能な社会・世界の実現につながる」という考えのもと、サステナビリティに関する活動に取り組んでいます。
リンテックでは、サステナビリティに関する理解を深め、個人が自らの業務と社会課題とのつながりに気づくきっかけを提供するため、従業員向けの情報共有サイト「サステナビリティ パレット」を通じて、サステナビリティに関する情報を集約・共有しています。情報共有サイトは、サステナビリティの基本的な用語解説をはじめ、リンテックグループの取り組みや、社会・業界を取り巻く最新の動向など、幅広い情報を掲載しています。
従業員一人ひとりがサステナビリティを自分事として捉え、日々の業務や判断のヒントとして活用できるよう、人材育成の一環として取り組みを進めています。

DX人材の育成

リンテックでは、従業員全員がDX＊推進の主役となることを目指し、DXリテラシーの向上に取り組んでいます。
その一環として、DXの基礎的な考え方をはじめ、データやIT、セキュリティに関する理解を深めるとともに、業務におけるソフトウェアの活用力を高め、DXを自分事として捉える意識の習得を目的に教育を実施しています。
具体的には、社外の研修サービスを活用し、2024年度下期より、全従業員を対象に一人あたり受講期間1年間の研修を実施しています。
さらに今後新たに入社する従業員についても受講対象とすることで、DXリテラシーの定着と継続的な向上を図っています。

＊　DX：デジタルトランスフォーメーション。デジタル技術を活用して、業務やビジネスのあり方を変革していく取り組み。

技術に親しむ会

リンテックの研究所では、技術交流促進を目的として、毎年「技術に親しむ会」を開催しています。
本会には、役員に加え、若手の営業担当者や事務スタッフ、工場のメンバーなどが参加し、技術理解のための情報共有を行っています。
具体的には、研究開発本部において開発中の技術や製品化された技術に加え、工場で得られた知見などについて、それぞれの取り組みを担当した従業員による説明を通じた共有を行っています。
また、各種実験の実演や実際の製品に触れる機会を設けることで、部門や職種を越えた相互理解を促し、経営層を含む多様な立場の従業員がリンテックの技術基盤への理解を深めています。

自己啓発通信研修

リンテックでは希望する従業員に対し、外部の通信研修を年2回実施しています。この通信研修は自己啓発を目的とし、期間内の受講修了者には会社が費用の一部を補助する仕組みになっています。通信研修の内容は経営、ビジネススキル、DX、外国語、教養、各種資格取得などさまざまです。

語学研修

リンテックでは、グローバルに活躍できる従業員を育成するために、自発的学習のサポート制度として語学研修制度を導入しています。受講者は受講希望者（自薦）のほか、所属推薦者を加え選定会議により決定します。研修時間は個人の語学レベルにより異なりますが、約100～150時間をかけて目標レベルへの到達を目指します。

人材育成関連データ［PDF：3,646KB］

社会性報告

従業員とともに（安全衛生）

リンテックグループでは、リンテック労働安全衛生方針を制定し、継続運用しており、方針にしたがって年間の安全衛生計画を策定しています。安全衛生計画では、重点実施項目ごとに目標や具体的な活動内容を設定しており、計画に沿った活動を実施しています。活動結果は、内部監査やマネジメントレビューで評価し、次年度の活動に役立てています。

安全衛生

安全衛生関連データ［PDF：3,646KB］

労働安全衛生方針

リンテックグループは2018年、「リンテック労働安全衛生方針」を制定するとともに本社や営業部門を除く国内事業所を対象とした「リンテック安全衛生マニュアル」を整備しました。
労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、毎月安全衛生委員会・衛生委員会を開催しています。
また、リンテックの安全衛生活動を分かりやすく体系化した「安全衛生文化の創出に向けて」を作成しており、リンテック安全四原則をベースに、安全衛生活動の四本柱を推進し、リンテックの安全衛生文化創出を目指します。

年間安全衛生計画

リンテックグループでは、年度ごとに安全衛生活動の年間計画を策定しています。この安全衛生計画には経営層の方針が示され、方針を達成するため、安全パトロールやリスクアセスメント*、安全教育などの重点実施項目を設定しています。重点実施項目については、さらに具体的な活動内容や目標を設定し、安全衛生活動に反映しています。活動結果と進捗状況については、毎月の安全衛生委員会で報告し、委員会のメンバー全員で改善について検討します。このようにPDCAを回しながら次の取り組みにつなげることで、安全衛生活動の継続的なレベルアップを図っています。

＊　リスクアセスメント：作業における危険性や化学物質等の有害性を特定後にリスク評価し、リスク低減策の検討を行うための手法。

年間安全衛生計画に含まれる項目

- 安全衛生委員会の開催
- パトロール計画
- リスクアセスメント安全教育
- 訓練計画
- 点検計画
- 作業環境測定
- 健康診断*
- メンタルヘルス
- 内部監査
- マネジメントレビューなど

＊　リンテックが所属している東京文具工業健康保険組合と協力して定期健診を実施し、結果の分析を行っています。各事業所にて、必要な人には再検診や保険指導をしています。

安全衛生委員会・衛生委員会

リンテックグループ国内外の工場・研究所では安全衛生委員会を、また本社、文京春日オフィス、大阪支店などの営業部門のある事業所では衛生委員会を毎月1回開催しています。各委員会には労働組合の代表者も出席し、各拠点長が最終の意思決定を行っています。
協議事項は法律で求められている項目を含め安全衛生全般にわたります。従業員の意見も必ず求めるようにしています。委員会で協議した結果を基に、各拠点長の責任と権限で最終決定をします。
各事業所で行う安全衛生委員会・衛生委員会では、従業員の意見を議事録に反映させ、従業員に情報を伝達しています。

疾病の発症率あるいはリスクが高い業務に従事している労働者

リンテックグループでは、事業の特性上、罹患リスクの高い業務に従事する従業員がいることを踏まえ、健康障害の防止に向けた管理体制を整えています。例えば、有機溶剤を使用する職場では、有機溶剤作業主任者を選任し、当該作業について作業方法の指揮・監督を行っています。また、事業者の責任において定期的に作業環境測定を実施するとともに、当該作業に従事する作業者に対しては、通常の健康診断に加え、法令に基づく特殊健康診断を実施しています。このほか、法令で定められた各種の特殊作業についても、作業内容に応じて必要な法定資格者の選任、保護具の設置・使用管理、健康診断の実施などを行い、作業者の健康確保に努めています。

休業災害ゼロに向けて

作業に潜む労働災害のリスクは、災害発生の可能性や結果の重大性をリスクアセスメントで評価しています。

労働安全関連データ［PDF：3,646KB］

社会性報告

地域社会とともに

地域社会との共生

リンテックグループは、地域社会とのつながりを大切にしながら、さまざまな取り組みを行っています。

地域社会との共生の取り組み関連データ［PDF：3,646KB］

社会性報告

株主・投資家とともに

リンテックでは、適時適切な情報開示による適正株価の形成を目指し、機関投資家や証券アナリスト、個人投資家の皆様に向けてさまざまなIR活動を実施しています。また、建設的な対話を通じて得られたご意見は取締役会や経営会議にて報告し、社内で共有することにより、経営の高度化と持続的な企業価値の向上を目指しています。

> 株主・投資家情報

※　株主・投資家情報ページ内に移動します。

サステナビリティ

ガバナンス報告



リンテックグループでは、社是「至誠と創造」を根幹におき、法令遵守と企業倫理を経営の最重要テーマとして位置づけています。

コンプライアンス

- コンプライアンス教育・啓発の推進
- 通報・相談体制
- 人権の尊重
- 腐敗防止
- 税務コンプライアンス

リスクマネジメント

- 全社BCMS
- 情報セキュリティー

関連情報

- コーポレートサイトガバナンス・コードへの対応

※　株主・投資家情報ページ内に移動します。

- 社外取締役メッセージ

ガバナンス報告

コンプライアンス

社是「至誠と創造」はリンテックグループの全役員・全従業員の信念であり、具体的に実現するためのガイドラインを「リンテックグループ行動規範」として定めています。私たちはこれを遵守し、高い倫理観と社会的良識を持って行動します。

> リンテックグループ行動規範

※　会社情報ページ内に移動します。

コンプライアンス教育・啓発の推進
通報・相談体制
人権の尊重
腐敗防止
税務コンプライアンス

コンプライアンス教育・啓発の推進

法務教育

リンテックでは、企業法務の理解促進に向け、取締役および執行役員を対象とした経営層向け法務研修を実施しています。
また、従業員に対しては、営業職を主な対象とした法務研修を継続的に実施しているほか、新任管理職や新任監督職を対象とした階層別集合研修の中に法務講座を取り入れるなど、日常の事業活動に潜む「法的リスク」への感度を向上させ、リスクの早期発見・対応が可能な風土づくりを目指しています。

法務関連情報の発信

リンテックグループでは、リーガルニュースを定期発行し、従業員への法務関連情報の発信を行っています。また、e-ラーニングを実施し内容の定着を図っています。

行動規範ガイドラインによる意識啓発

グループ従業員一人ひとりが遵守すべき行動を明示した行動規範を各言語に翻訳した小冊子「リンテックグループ行動規範ガイドライン」を全従業員へ配付し、各職場で読み合わせるなど周知徹底の機会を設けています。

倫理観の醸成

2006年度よりスタートした「りんりかわら版」は、従業員に求められる倫理観や行動規範を解説つきの川柳にし、イントラネットを通じて、分かりやすく浸透を図る取り組みです。これらの川柳を隔年で小冊子「りんりかわら版 守ってマスカ!?」にまとめ、国内グループ全従業員に配付しています。行動規範の遵守および倫理観の醸成に役立てるとともに、お客様やお取引先にも紹介しています。
さらに企業倫理分科会では、年1回、倫理ポスターを作成し、各職場で掲示して意識向上を図っています。

コンプライアンス教育・啓発の推進関連データ［PDF：449KB］

通報・相談体制

リンテックグループでは、法令違反や重大なコンプライアンス違反を早期に把握し、是正および再発防止につなげることを目的として、「内部通報制度」「グローバル内部通報制度」を設けています。通報の主な受け手は第三者である弁護士であり、通報者と通報内容についての秘密が守られた状態で迅速な調査を行える体制を整えています。また、通報内容の概要は取締役会や監査等委員会に報告されます。
加えてリンテックでは、職場内で解決することができない労務環境や職場環境、職場でのコンプライアンスに関する事項について人事部あるいは総務・法務部に直接相談できる「人事・労務／コンプライアンス相談窓口」も設けています。相談相手の性別を指定することもでき、セクシャルハラスメントなどについても安心して相談できる工夫をしています。
このほか、外部契約機関を受け手とする「職場環境改善のためのハラスメント相談窓口」を設置しています。
これらの体制により、公正で透明性の高い事業運営を推し進め、ハラスメント等のない良好な職場環境づくりを目指しています。

通報・相談体制関連データ［PDF：449KB］

人権の尊重

リンテックグループは人権方針のもとグローバルに展開する事業活動のなかで影響を受ける全ての人の人権を尊重します。

> リンテック人権方針

※　会社情報ページ内に移動します。

リンテックグループでは、人権が尊重された安全で健康な労働環境が確保されていることを確認するために人権および労働に関する実態調査を年1回実施★しています。
調査項目は、法対応や差別の撤廃、人権尊重、児童労働の禁止、強制労働の禁止、賃金、労働時間、従業員との対話・協議、安全・健康な労働環境、人材育成など多岐にわたります。
定期的に調査を行うことで、実態把握とその改善に活用していきます。

★マークについては こちら　（第三者検証）

腐敗防止

リンテックグループは、政治や行政と健全な関係を維持します。企業の政治献金は多くの国において違法とされており、国内外を問わず、公的機関と取引をする場合、その職員へ贈答や接待を行いません。汚職、贈収賄の防止については、行動規範ガイドラインにその重要性を記載し、意識啓発を行っています。
また、全てのお取引先を共に成長していくパートナーと考え、信頼関係を構築します。行動規範ガイドラインに各国における法令を順守することの重要性を記載して意識啓発を行っています。

> リンテックグループ行動規範ガイドライン［PDF：1,012KB］
> マルチステークホルダー方針・パートナーシップ構築宣言

※　会社情報ページ内に移動します。

税務コンプライアンス

リンテックグループは、社是「至誠と創造」の理念のもと、所在国、地域あるいは関係国、地域が定めた法令の遵守を徹底し、適正な納税を行っています。
グループ全従業員に配付している「行動規範ガイドライン」に経理処理についての考え方を明らかにするなど、日常取引が適正、適法に行われるよう啓蒙しています。

ガバナンス報告

リスクマネジメント

リンテックグループの事業に影響を及ぼす可能性があるリスクに対して「全社リスク管理委員会」を設置し、定期的に委員会を開催しています。

› 事業等のリスク

※　株主・投資家情報ページ内に移動します。

› 全社リスク管理委員会（リンテックグループの考え方、体制）

全社BCMS

リンテックおよび東京リンテック加工（株）では、地震をはじめとするさまざまな災害発生時に人的被害を最小限にとどめ、早期に事業を再開するために、2014年3月にISO22301*1の認証を取得し、BCMS*2を運用しています。
従業員一人ひとりが災害発生時の役割を認識し、あらかじめ定めた行動手順に沿って自主的に行動できるよう教育を実施しているほか、想定を超えた事態への対応に備えて事業内容や拠点の特性に応じた演習も盛んに行われています。
各拠点におけるBCMSの運用状況は内部監査で確認され、従業員の意見や改善案は全社BCMS評議会で協議し、全社的な取り組みへと反映しています。

＊1　ISO22301 ： 事業継続マネジメントシステムに関する国際規格。

＊2　BCMS：Business Continuity Management System（事業継続マネジメントシステム）の略称。災害やパンデミックなどの緊急事態が発生した際にも、事業を早期復旧できる体制を構築するためのマネジメントシステム。

情報セキュリティー

リンテックでは、情報・サイバーセキュリティーを事業などのリスクの一つとしており、情報の共有化・活用などと安定的・的確な企業活動の推進を目的に「情報セキュリティー管理規程」を策定しています。
また、e-ラーニングによる情報セキュリティー自己監査を毎年実施し、情報管理に関する従業員の理解促進と意識向上に努めています。
さらに、サイバー攻撃の巧妙化とウェブ会議や社内チャットなど情報系ツールの活用状況を踏まえ、ネットワークを使用する際の注意事項などを含めた総合的な教育と権限管理を行っています。

情報セキュリティー関連データ［PDF：449KB］

その他の開示情報

会社方針一覧

リンテックグループの活動指針となる会社方針一覧を掲載しています。

› 会社方針一覧

※　会社情報ページ内に移動します。

報告方針

報告対象範囲や参考ガイドラインなど本サステナビリティサイトの報告方針を掲載しています。

報告方針［PDF：91KB］

GRI内容索引

リンテックグループが開示している取り組みとGRIスタンダードの対照表を掲載しています。

GRI内容索引［PDF：672KB］

第三者検証

サステナビリティ報告に対する第三者検証意見書を掲載しています。

第三者検証［PDF：5,388KB］

外部評価

ESG関連評価について掲載しています。

外部評価［PDF：391KB］

ESGデータブック/サステナビリティレポート/その他関連情報

リンテックグループではESGデータブック（日本語・英語）、サステナビリティレポート（日本語・英語・韓国語・中国語・マレーシア語・インドネシア語・タイ語・ベトナム語・スペイン語など）を発行しています。以下のページでは、日本語版のアーカイブを掲載しています。

› ESGデータブック/サステナビリティレポート/その他関連情報

ESGデータブック/サステナビリティレポート/その他関連情報

ESGデータブック

- ESGデータブック2026［PDF：6,637KB］
- ESGデータブック2025［PDF：4,555KB］
- ESGデータブック2024［PDF：2,329KB］

サステナビリティレポート

サステナビリティレポート2026

- サステナビリティレポート2026（2026年10月更新予定）
- e-book（2026年10月更新予定）

サステナビリティレポートは、当社サステナビリティサイトの内容を抜粋し、PDF/冊子/e-book形式で年に一度まとめています。

バックナンバー

- サステナビリティレポート2025［PDF：8,999KB］
- サステナビリティレポート2024［PDF：5,505KB］
- サステナビリティレポート2023［PDF：4,441KB］
- サステナビリティレポート2022［PDF：5,675KB］
- CSRレポート2021［PDF：6,089KB］
- CSRレポート2020［PDF：6,337KB］
- CSRレポート2019［PDF：5,739KB］
- CSRレポート2018［PDF：8,507KB］
- CSRレポート2017［PDF：10,653KB］
- CSRレポート2016［PDF：13,669KB］
- CSRレポート2015［PDF：13,274KB］
- CSRレポート2014［PDF：14,347KB］
- CSRレポート2013［PDF：13,284KB］
- CSRレポート2012［PDF：13,864KB］

下記ご希望のお客様はお問い合わせページよりご連絡ください。

CSRレポート2008～2011、環境・社会報告書2006・2007、環境報告書2004・2005、各種他言語版

※　いずれもストレージサービスなどによるPDF版の送付となります。

› お問い合わせページ

※　お問い合わせページ内へ移動します。

統合報告書

各年度の統合報告書をご覧いただけます。

> 統合報告書

※　株主・投資家情報ページ内に移動します。